

7. 国際交流

7.1 国際交流委員会

委員長：濱 耕子（教授）

委員：西村教授、加藤准教授、木森准教授、塚田准教授、阿部准教授、市丸講師、
金谷講師、中道講師、山崎助教、清水助教、大江助教、大西助手、瀬戸助手

事務局：宮川主任主事

活動内容：

1. 学生の夏期アメリカ看護研修（学部科目「国際看護演習」）（7.2参照）

本学では、国際的に活躍できる人材の育成をめざし、夏期アメリカ看護研修（国際看護演習、1単位・30時間）が行われている。参加経費は学生の自費によることから、より多くの学生が参加できるように、研修プランの策定にあたっては、平成29年度も業者にプロポーザル方式でプランを提案させ、経費負担の抑制を図った。その結果、参加経費が346,000円（諸経費含む）となり、22名の学生が参加した。また、事前学習として、2015年度から研修内容に応じて日本とアメリカの保健医療制度や実情を自己学習させ、自己紹介の英会話を取り入れてきた。

今後の課題として、日本学生支援機構（JASSO）の留学生支援資金取得により、研修機会を広げていく。JASSOが謳う「グローバル人材育成」に向けて「自立する能力」「将来の進路を触発する」ためにも、MOU締結先のワシントン大学と連携した高度実践看護師（特に専門看護師、ナースプラクティショナー等）や留学生との交流、英語力強化やプログラム評価の方法を検討し、評価結果を基にした改善に取り組む必要がある。

2. 国際交流意識の向上をめざした取り組み

学生および教職員の国際交流意識の向上をめざし、以下について取り組んだ。

1) 国際交流の集い

日時：2018年2月20日（火）15：00～16：40

場所：地域ケア総合センター研修室

ねらい：本学学生が留学生等の講演や対話を通して、異文化のなかの多様な価値観を知る。

国際的視野を広げるとともに、海外で学ぶことの動機付けの機会とする。

プログラム：学生部長挨拶

講話1「留学の楽しさと辛さ」

講師：Franziska Nakamura [中村 フランツィスカ]さん
（研究者、現在は主婦、ドイツ出身）

講話2「The Struggles and Triumphs of Living Abroad」

（海外生活での挫折と成長）

講師：Calum Galt [カルム ガルト]さん
（石川県国際交流員、アメリカ出身）

講話1～2に対する質疑応答

講師を囲んで小グループでフリートーク&質疑応答

国際交流委員長挨拶

参加者：学生12名(2年生7名、4年生3名、大学院生2名)、教職員14名

大雪のため2月8日から開催を延期した。開催日は時間制限があるなか、終始、和やかだが笑顔の絶えない交流会となった。スピーカーに質問している学生や見送りをする学生の様子から交流は十分にできていた。今後は開催時期や時間の設定を考慮する必要もある。

アンケートを実施し、10名(83%)から回収した結果、参加学生は当会で国際交流への興味を持ち、交流行事に対する参加希望や貴重な機会と捉えていた。具体的には、「留学のメリットとデメリット、外国語の学び方が分かりよかった、勉強を頑張ろう」という意見があり、「日本語で質問でき楽しかった、固くない雰囲気がよかった」と参加しやすさを求める声も聞かれた。

加えて、「外国の現状、考え方を知ることができ、視野が広がった」、「文化の違いや共通点から日本の制度がどうなのか考えた」、「今後専門職として働く上での姿勢や気をつけなければいけない」と記載されており、他国の価値観や文化に興味を持つことが、国際的視野を広げることや海外で学んだり、専門職に就くことへの動機付けの機会になったと思われる。

今後はこのような国際交流の機会を学生の地域活動として取り上げていく工夫も必要である。

2) 教職員等向けの英会話の運営および方法の検討

教職員等向けの英会話を毎週金曜日に以下のように実施した。主な参加者は12名ほどで、1回のクラスの参加者は「グループレッスン」1～7名、「プライベートレッスン」1名固定であった。「グループレッスン」の延べ参加者数の平均(1週当たり)については、前期3.1名、後期3.3名と例年(2015年度前期2.5名、後期2.3名、2016年度前期3.1名、後期3.3名)同様に少数固定化で経過した。そのため、今年度はクラス形態を変更し、改善を試みたが目立った増加はなかった(※)。大学院生を新たに対象とした分、全体の参加率が保たれていた。委員会メンバー4名が交替で講師との連絡調整、教職員・大学院生への周知、当日の準備を行った。

※今年度は、グループレッスンの参加が少数固定化していることへの対応として、4月に語学の難易度でfirstコースとadvancedコースにクラス分けを行い、隔週開催とし、同時に大学院生もグループレッスンに受け入れた。7月と9月にはアフタヌーンサロン(第1週目のみ、グループレッスン13時30分～14時30分、プライベートレッスン14時30分～15時30分)を開催したが、全体としての参加者は増えずに続かなかった(理由：語学力修得へのニーズが様々、臨地実習業務等で多忙)。8月にグループのクラス分けも廃止し、元来のグループレッスンとプライベートレッスンの形態に戻った。

一方で、プライベートレッスンは2016年5月以降、今年度も安定して需要があった。

【英会話教室の概要】

日時：毎週金曜日

レッスン形態：

- (A) 18時～18時50分：グループレッスン(フリートーク、一部テキストを用いた文法修得)
4～6月のグループレッスンはfirst course(挨拶や自己紹介ができる程度の英会話力対象)とadvanced course(海外旅行で困らない程度の英会話力対象)に分け、隔週開催
- (B) 19時～19時50分：プライベートレッスン(予約制：フリートーク、手紙、論文、学会抄録、メール等の英作文、英文読解に関する修得)

場所：教育研究棟3階演習室4

講師：Mr. Clive Ross

なお、国際交流委員会主催の英会話教室開催は終了した(次年度以降は、プライベートレッスンは、同講師により個人契約・有料となる)。

3) 国際交流の掲示板の内容の更新

本学の国際交流活動を広く周知するために設けられた学内2か所に国際交流の掲示板の内容を平成29年度版に更新した。更新した内容は、アメリカのワシントン大学との提携覚書(Memorandum of Understanding)の更新、同大学クリスマン教授への感謝状贈呈、夏期アメリカ看護研修、JICAからの委託研修(日系：パラグアイ、青年：タイ)、春期韓国全北大学校看護・文化研修である。

なお、平成28年3月末に訪問した、中国の南京中医薬大学(江蘇省)および吉林大学看護学部(吉林省)との提携覚書の締結、タイのチェンマイ大学における保健医療福祉研修の写真は継続して掲示している。

4) その他

グローバル化する社会において、教員と大学院生の英語能力向上が喫緊の課題となっており、日頃から英語に触れ、読み書きする機会が重要視されるようになった。今年度は本学の行事として、学外講師を招聘し、本学教員と大学院生対象に看護研究の国際学会出席、抄録作成、国際誌への投稿に際する準備・動機付けに有用となる研修会を実施している。

その機会(12月8日)に、国際交流委員会主催で学外講師(飯田恭子氏)と本学英会話教室講師(Mr. Clive Ross)を交えて合同交流会を実施した。教員と大学院生10名程度の参加があり、グループに分かれて英語での自己紹介(出身、自身の研究テーマ等)、学会発表のポイントや使える英語について意見交換・共有した。最後にグループ発表を行い、学外講師より助言・講評をいただいた。

参考【研修会の概要】

日時：2017年9月22日(金)、※※12月8日(金)

講師：飯田恭子氏(東京医療保健大学非常勤講師、看護英語の専門家)

研修会テーマ：「書いてみよう、増やして行こう英語論文」(第1弾、第2弾)

※※同時期(8～9日)に、教員・大学院生対象の個別指導、大学院生対象のミニ講演も実施

7.2 夏期アメリカ看護研修（学部科目「国際看護演習」）

2017年9月1日～9月14日の2週間にわたり、夏期アメリカ看護研修がワシントン州シアトルで行われ、学生22名（3年18名、2年3名、1年1名）が参加した。

研修内容

1. 講義

1) テーマ：「アメリカのナースの役割・教育・保健医療システムについて」

講 師：上月頼子先生（ワシントン大学看護学部准教授）

内 容：

- ①アメリカの保健医療システム
- ②アメリカのNSが働いている場（病院・クリニックやそれ以外の場）
- ③NSが提供しているサービス／メディカルスタッフの中での役割分担（Dr、SW、PT、OT、ST、NSのそれぞれの役割）、日本のNSとの違い
- ④看護教育制度（NPの紹介、ライセンスを得るための教育、権限・責務など）

2) テーマ：「日米の医療の様々な違いについて」

講 師：Yuko Hansen先生（Children' s Hospital）

内 容：日米の医療システム、医療現場の違い

3) テーマ：「プライマリーケア」

講 師：Richard D. Kovar 先生 他複数のNP

内 容：アメリカの地域医療、訪問医療 クリニックで活躍するNPの役割

2. 語学研修

日常英会話、看護英語など

3. 保健医療・福祉施設の見学

- 1) University of Washington
- 2) University of Washington School of Nursing
- 3) Country Doctor Community Clinic
- 4) Harborview Medical Center
- 5) Keiro Northwest
- 6) Nikkei Manor
- 7) Seattle Central College
- 8) Health Education Center

4. 日程

	月日 (曜)	都 市 名	発着	交通機関	時刻	日 程	宿泊・食事 (朝・昼・夕)
1	9/1 (金)	小松空港 成田空港 成田空港	発着 発着 発着	全日空 3118 " 全日空 178	14:40 15:55 18:05	着後、リムジンバスにて成田空港へ 一路、シアトルへ 《日付変更線》	(- - 機)
		シアトル	着	専用車	11:25 午後 夕	入国審査後、専用車でワシントン大学キャンパスへ スーツケースを預け、歩いてキャンパスへ オリエンテーション ホストファミリーと対面。ホームステイ宅へ	ホームステイ (機 - ○)
2	9/2 (土)	シアトル		市バス 徒歩	午前 午後	ワシントン大学への行き方を学ぶ ワシントン大学 Light Rail Station 集合 Orca Card チャージ シアトルダウンタウン観光：パイプブレイスマーケット ットやウォーターフロントなど	ホームステイ (○ ○ ○)
3	9/3 (日)	シアトル		市バス/LLR	11:00 13:30	ワシントン大学 Light Rail Station 集合 メジャーリーグ観戦 (マリナーズ vs アスレティクス)	ホームステイ (○ ○ ○)
4	9/4 (月)	シアトル		市バス/LLR	終日	フリータイム (Labor Day のため休日)	ホームステイ (○ ○ ○)
5	9/5 (火)	シアトル		市バス/LLR 市バス/LLR	09:30 13:20	ワシントン大学へ ワシントン大学看護学部教員による講義： 「アメリカのナースやナースプラクティショナーの 役割・教育・保健医療システムについて」 Country Doctor Community Clinic 訪問	ホームステイ (○ ○ ○)
6	9/6 (水)	シアトル		市バス/LLR 徒歩	09:30 午後	ワシントン大学へ English Lesson (日常英語) ワシントン大学学生によるキャンパスツアー	ホームステイ (○ ○ ○)
7	9/7 (木)	シアトル		市バス/LLR 市バス/LLR Uber?	09:30 14:15	Keiro Northwest 訪問 ボランティアスタッフとして入居者と触れ合い、ケア だけでなくアメリカの日系人の歴史について学ぶ Nikkei Manor 訪問 軽介護施設での高齢者との触れ合いと看護ケアにつ いて学ぶ。 Pizza party	ホームステイ (○ ○ -)
8	9/8 (金)	シアトル		市バス/LLR 市バス/LLR	09:00 午後	Seattle Central College Health Education Center 訪問 ワシントン大学へ English Lesson (日常英語と視察事前学習)	ホームステイ (○ ○ ○)
9	9/9 (土)	シアトル		市バス/LLR	終日	エクスカージョン フェリーで Bain Bridge Island へ ：初期の日系移民 の歴史が始まった日本人ゆかりの島	ホームステイ (○ ○ ○)
10	9/10 (日)	シアトル		市バス/LLR	終日	終日フリータイム	ホームステイ (○ ○ ○)
11	9/11 (月)	シアトル		市バス/LLR 市バス/LLR	午前 09:30 13:00	ワシントン大学へ 日本人ナースによる看護セミナー ：現場から見 た日米医療と看護の違いについて Harborview Medical Center へ (通訳付き) ※第1級外傷センターとして高い評価を得てい る病院の病棟やICU, リハビリセンター、Medic 1 などを視察	ホームステイ (○ ○ ○)
12	9/12 (火)	シアトル		市バス/LLR	09:30 午後	Seattle Central College へ 現地学生との交流 *現地学生や留学生との交流会 (Seattle Central College) ワシントン大学へ Presentation / Closing ceremony	ホームステイ (○ ○ ○)
13	9/13 (水)	シアトル	発着	専用車 全日空 177	09:30 13:20	ワシントン大学に集合 シアトル空港へ 一路帰国の途へ	機内泊 (○ - 機)
14	9/14 (木)	成田空港 成田空港 小松空港	着 発着 着	" 全日空 3119 "	15:20 18:30 19:40	入国後、国内線ターミナルへ 着後、解散	(機 - -)

7.3 春期韓国看護文化研修（全北大学校看護大学）

本学は2014年11月17日に全北大学校看護大学と提携覚書(MOU:Memorandum of Understanding)を締結した。このMOU締結を期に韓国全北大学校ならびに全羅北道の協力を得て、大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ課題解決型グローバル人材育成システムの構築」における石川県立看護大学企画の研修を立案した。2015年の夏期休業中に全北大学校看護大学において14日間のプログラムで研修を実施する予定であったが、感染症MERS（Middle East Respiratory Syndrome：中東呼吸器症候群）の韓国内のアウトブレイクにより延期せざるを得なくなり、翌年3月下旬に8日間に期間を短縮し実施した。参加者は本学学部生・大学院生・教員計14名であった。第2回目の研修は、大学間連携共同教育推進事業の事業終了に伴い、本学の国際交流事業として実施することになった。プログラムは、2018年3月18日～3月25日（8日間）に、全北大学校国際交流部のFeeling Koreaの文化体験を中心とした内容に本学のグローバル人材の育成を目的とした内容を折衷しての内容で実施した。参加者は学部生10名・大学院生1名・教員4名の計15名であった。詳細は以下の通りである。

1. 研修名：春期韓国全北大学校看護・文化研修

2. 目的

韓国の政治や文化、保健システムを知り、地域における住民の暮らしや健康課題への対処方法について学ぶことにより、視野を広め、今後学生の将来の活動において、様々な地域住民の健康づくりにアプローチできるグローバル人材を育成する。

3. 目標

- 1) 韓国の保健医療福祉システムを理解する。
- 2) 韓国の特徴的な看護について理解する。
- 3) 韓国の町中心部、かつ過疎地域での看護職の活動を理解する。
- 4) 韓国語レッスンを受け、韓国語に親しむ。
- 5) 文化交流を通して韓国文化を理解する。

4. 内容

1) 期間：2018年3月18日（日）～3月25日（日）

2) 研修先：韓国 全北大学校 全羅北道全州市内施設

3) 研修内容

(1) 講義

全北大学の看護教育、韓国の保健の動向と健康問題

講師：全北大学校看護大学長

(2) 保健医療・福祉施設の見学

①都市部のフィールドワーク

・医療機関、保健所、高齢者保健福祉関連施設、母子保健福祉関連施設の見学

②農村部のフィールドワーク

・保健診療所見学(処方権を持つ看護師が運営する保健診療所)、及び保健診療員(NP)が行う健康教育等に同行

③その他

・国民健康保険関連施設の見学

- (3) 全羅北道全州市内の文化施設の見学や体験
- (4) 韓国語研修
- (5) 全北大学校学生との交流、ディスカッション

5. 日程

Date	Time	Program	Accommodation
3月18日 (日)	AM PM	From Komatsu Airport 12:00 → arrive at Incheon Airport 14:05 → arrive at Hunsan guest house' in CBNU 19:30	Hunsan guest house in CBNU
3月19日 (月)	AM	CBNU campus tour Courtesy visit to Jeonbuk Provincial government Jeonbuk Provincial government building Tour - Lunch with the staff of the International Exchange Division, Jeonbuk Provincial government	"
	PM	Visit Nursing department- Look around inside (classroom etc) Audit Nursing department class Meeting with CBNU Students Welcome dinner- With CBNU Students	"
3月20日 (火)	AM	Korea paper art (Making Traditional Fan) Jeonju Hanok village tour Making Traditional Food (Bibimbap) - Making & Eating	"
	PM	Free time in Hanok Village Korean Language Class	"
3月21日 (水)	AM	Korean Language Class	"
	PM	Visit Jeonju Public Health Center & tea time Visit CBNU hospital - Children' s ward, Children' s outpatient clinic (Radiology, Endoscope, Urology, Internal medicine etc.), MFICU	"
3月22日 (木)	AM	Lecture from professor of Nursing department Lecturer: Dean of College of Nursing ,Professor. Kim Hyeon Ok Visit National Health Insurance Corporation	"
	PM	Korea Language Class	"
3月23日 (金)	AM	Visit Gimje Committed Nursing Home (Senior Care Center)	"
	PM	Visit Gimje Sangjung Health Center Visit Daedong Health Center Visit Yogyo Group Home (for elderly living alone) & Yogyo Gyeong-nodang Visit Tree House (by Masayuki Mizuno) tour and discussion	
3月24日 (土)	AM	Jeonju → Seoul (Move by bus at CBNU)	Vabien Suite 2 Serviced Residence
	PM	Free time in Seoul	
3月25日 (日)	AM	From Incheon Airport 7:55 → arrive at Komatsu Airport 9:40	

7.4 日中韓看護フォーラム

1. 目的

石川県立看護大学が2014～2016年にMOU協定を結んだ南京中医薬大学(中国江蘇省)、吉林大学(中国吉林省)、全北大学(韓国全羅北道)との交流を実質化し、石川県や北陸地域の医療機関や看護系大学と極東アジア各国の看護教育について情報共有を図ることを目的とする。併せて本学が助産師養成を次年度から開始することを受け、そのキックオフフォーラムとも位置づけ、助産師教育の情報共有をも諮る。

2. 開催日時、場所、参加者数、支援団体など

- (1)開催日程 2017年8月11日(金・祝) 13:00-17:40
- (2)開催地 石川県金沢市
- (3)開催会場 ホテル金沢
- (4)参加者数 約80名
- (5)支援団体 石川県日本中国友好協会・河北地区日中友好協会、金沢医科大学、北陸大学、NPOいしかわ在宅支援ねっと、河北ロータリークラブ、(株)高松印刷高松ライオンズクラブ、かほく中央ライオンズクラブ

3. プログラムの内容と講演(群長大学の金賢淑教授は来日が叶わなかった。)

	時間	演者	テーマ
1	13:20~13:45	南京中医薬大学 副学長 徐桂華 (Xu Guihua)	中国における看護師教育の歴史と現状 (中医系を中心に)
2	13:45~14:10	吉林大学看護学院 副院長 李昆 (Li Kun)	中国における看護師教育の歴史と現状 (非中医系を中心に)
3	14:10~14:35	イェス大学 教授 孔恩淑 (Kong Eun-Suk)	韓国における看護師教育の歴史と現状
4	14:35~14:50	石川県立看護大学 教授 川島和代	日本における看護師教育の歴史と現状
休憩(15分間)			
5	15:05~15:30	群長大学 教授 金賢淑 (Kim Hyun-Sook)	韓国における出産/育児支援の現状及び助産師教育
6	15:30~15:55	吉林大学看護学院 准教授 孫皎 (Sun Jiao)	中国における出産/育児支援の現状及び助産師教育 (非中医系を中心に)
7	15:55~16:20	南京中医薬大学看護学院 准教授 康健 (Jian Kang)	中国における出産/育児支援の現状及び助産師教育 (中医系を中心に)
8	16:20~16:35	石川県立看護大学 教授 濱耕子	日本における助産師の専門性と教育
休憩(5分間)			
9	16:40~17:00	質疑応答、意見交換	

4. 準備委員会メンバー構成

石垣和子(学長)、出村邦夫(事務局長)、濱耕子(国際交流委員長)、西村真実子(副国際交流委員長)、川島和代(広報委員長)、塚田久恵(国際交流委員)、清水暢子(国際交流委員) 宮川泰生(総務課)